

## 令和元年度第3回法政策等フォーラム型実験小委員会議事概要

- I. 日 時：令和2年2月5日（土）14：00～16：00  
II. 場 所：公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局  
III. 出席者：中村主査、高嶋委員、佐渡友委員、井上委員、西貝委員、菊池委員（ネット）  
事務局：井端事務局長、中村  
事務局より、議事録により前回の確認を行った後、以下の確認と検討を行った。

### IV. 確認および検討事項

1. 「法政策等フォーラム型モデル実験授業」の実施結果について  
「SDGs の観点から食品ロス問題を検討する」をテーマに実験授業を行った3つのチームから実施結果と成果について報告があり、小委員会として認識の共有を行った。

#### 【実験授業で狙った成果】

- (1) 課題を自分の問題として捉えられるようにする。
- (2) 客観的なデータやWeb情報を用いて、問題発見できるようにする。
- (3) 多分野の意見を組み合わせ、解決策を考察できるようにする。  
(論理的・批判的思考力、合理的判断力、発想・創造力の向上を目指す)
- (4) 議論・意見の内容に筋道が通っており、分かりやすい表現ができるようにする。

#### ① 神奈川大学(中村チーム)

- ・ 2年生5人5チーム編成による合計25人の実験授業を実施し、外部有識者4名も参加。
- ・ 2019年11月第1週～2020年1月第2週に実施。中間発表後の手直し等で当初計画より1コマ多い8コマで実施し5チームによる最終発表を行った。

#### 成果：

- ・ 学生たちは複合的な視点から意見を出し合い、ひとつにまとめることが出来た。課題を自分の問題として捉えられるようになったと言える。
- ・ 学生たちは、他大学学生の掲示板への書込みをもとにチーム内で議論を行った。

#### 課題：

- ・ チーム内コミュニケーションやチーム内のリーダー設定の課題がある。
- ・ 掲示板に掲載する動画制作やプラットフォームに改善が必要。
- ・ 1コマ(KJ法による検討)の追加、評価用ルーブリックの策定が必要。
- ・ 学生に自己成長記録を書かせ、自らの学修を客観視させる必要がある

#### ② 神奈川大学(井上チーム)

- ・ 2年生6人のチームによる実験授業を実施した。、外部有識者4名も参加。
- ・ 2019年10月～2020年1月の10コマの授業で約半分の時間を充て実施した。

#### 成果：

- ・ 学生達は自ら選んだSDGsにおける課題を自主学修し、グループワークで議論することで個人として認識していた課題を社会全体の問題として捉え、エビデンスによる問題提起まで行うことが出来た。
- ・ 学生達は、他大学学生の書込みを認識しチーム内で議論した。
- ・ 外部有識者との意見交流を経験することで、多分野の意見を組合せ考察するまでには至らないものの必要性の認識は得られた。

#### 課題：

- ・ 事前学修の質を高めるためのネットを利用した材料提供が必要。
- ・ 外部有識者との協同に不慣れな学生たちに自主的な学修や議論を進めるため、教員には学外有識者との議論促進や、協同掲示板への積極的な書込み活用など学生たちの議論を反映させる働きかけと工夫が必要である。

- ・ 過程についての評価など多面的な能力の評価が難しい。

### ③ 京都産業大学(高畠チーム)

- ・ 1年生5人5チーム編成による合計25人の8コマの実験授業を実施し、外部有識者4名には特徴的な学生の報告書を送っている。

#### 成果：

- ・ 全ての学生にプレゼン発表と報告書の提出を義務づけたところ、食品ロスについて自らのことと認識し社会全体の課題として捉えた報告書が提出された。
- ・ 学生たちは、他大学学生の手書きを認識しチーム内で議論することもできた。
- ・ わかりやすい内容や表現による発表や、簡潔な報告書原稿作成などの成果も見られた。
- ・ ほぼ全ての報告では、食品ロスに内在する諸問題を、南北問題や環境問題、貧困問題など他の分野と関連させ、広い視点で発見・検討している。また、環境保護の視点、法律による規制、地方自治体やNGO等の取組みなど客観的データや様々な領域の知見を取入れ、組合わせて考察している報告が多かった。

#### 課題：

- ・ 学生は意見を出し合うなど掲示板を活かしきれておらず、活用に工夫が必要である。
- ・ 外部有識者から、学生はSNSでのやり取りには慣れているが、掲示板を利用した実験授業では、「提言」ごとにスレッドを立てスレッド内でテーマに沿った議論を深め、意見を書き込んでいく形がよいのではないかとの提言があった。
- ・ 多面的な能力の評価が難しい。

2. 来年度における「法政策等フォーラム型授業」の方針について検討を行い以下のように進めることを決定した。

#### ① 「実験授業 2019」によるフォーラム型授業モデルの課題の洗い出し

2020年4～5月に本年度実施した実験授業(実験授業2019)実施による課題の洗い出しを行う。

SDGsや社会的な課題について、ネット上で複数大学のゼミナール、有識者を交えて、法政策等の観点から多分野で解決策を議論し、提案・発表するICTと対面を組み合わせたフォーラム型授業の実験を通じて授業の効果、課題、改善対策について整理する。

#### ② 「実験授業 2019」の改善授業モデルの構築と「実験授業 2020」の実施

SDGsについてテーマを改めて、ネット上で複数大学のゼミナール、有識者を交えて、法政策等多分野の観点から解決策を議論し、提案・発表・評価を組み入れたフォーラム型授業の実験を通じて授業の有効性を検証する。

- ・ 「実験授業 2020」は後期に実施し、テーマ候補は例えば、環境問題(エネルギー)を検討する。
- ・ 別途、前期に神奈川大学(中村ゼミ)、京都産業大学(高畠ゼミ)、青山学院大学(菊池ゼミ)に別テーマによる実施を検討する。

#### ③ フォーラム型授業モデルの運営マニュアルの作成

ICTと対面を組み合わせる中で、有識者を交えた授業の運営方法について、「実験授業 2020」を踏まえて他分野で活用できるよう、以下の視点を参考に授業の進め方に関する手引き書をとりまとめ、Webに掲載して理解の普及を図る。

- \* フォーラム型授業の意義
- \* 授業で獲得する能力
- \* ネット学修の仕方(自己学修とチーム学修)
- \* 対面授業の仕方

- \* チーム編成の仕方
- \* チーム内、チーム間のコミュニケーションサイトの作り方
- \* ネット環境の作り方
- \* ネット活用知識のトレーニング
- \* 課題の選定
- \* 授業シナリオづくり
- \* 授業の運営体制
- \* 動画教材の作り方
- \* 外部有識者の選定と確保
- \* コーディネータ、ファシリテータの役割
- \* コーディネータ、ファシリテータによる学修進捗状況の確認
- \* 外部者による評価の仕方
- \* 到達度評価のルーブリックづくり

3. その他（次回開催日等）

4月4日(土)14時に本協会事務局会議室で開催することとしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため大学における授業が見通せないため延期し、状況の推移を見守りあらためて委員に諮ることとした。